

海外経済

		9月	10月
世界経済		世界の景気は後退しており、引き続き深刻な状況にあるが、アジアを中心に持ち直しの動きが広がっており、底入れしつつある。先行きについては、金融危機と実体経済悪化の悪循環により、下振れするリスクがある。	世界経済は雇用が悪化するなど引き続き深刻な状況にあるが、景気刺激策の効果もあってアジアを中心に持ち直しの動きが広がっており、景気は下げ止まっている。 先行きについては、緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、信用収縮や雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。
アメリカ		景気は後退しており、引き続き深刻な状況にあるが、政策効果もあり、下げ止まりつつある。先行きについては、金融危機と実体経済悪化の悪循環により、景気後退が長期化するリスクがある。	アメリカでは、失業率が10%近傍まで上昇するなど、引き続き深刻な状況にあるが、政策効果もあり、景気は下げ止まっている。 先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、信用収縮の継続や雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。
アジア地域	中国	中国では景気は回復しつつあり、それ以外の国・地域でも総じて景気はこのところ持ち直している。	中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に回復している。 先行きについては、欧米向けを中心に輸出は弱い動きが続くものの、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、マネーサプライの急増によるリスクには留意する必要がある。
	その他アジア地域		その他アジア地域では、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は持ち直している。ただし、一部でこのところ生産の回復に足踏みがみられる。 先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられること等から、回復に向かうと見込まれる。ただし、欧米等先進国向けの輸出の低迷が続くこと等により、本格的な回復が遅れるリスクがある。
ヨーロッパ地域		景気は後退しており、引き続き深刻な状況にあるが、政策効果により一部の国で下げ止まりもみられる。先行きについては、金融危機と実体経済悪化の悪循環により、景気後退が長期化するリスクが高い。	ヨーロッパ地域では、景気は後退しており、失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、自動車買換え支援策等の政策効果により、ドイツ、フランス等一部の国で下げ止まりもみられる。 先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、自動車買換え支援策の反動や信用収縮、雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。